もし知人がLGBTだと知ったら…

告白された側も相談できず悩んだ

一橋大学サークル「LGBTQ+ブリッジネットワーク」代表　本田恒平さん（25）

相談先、向き合い方 パンフで紹介

人間の性のあり方は多様です。そのことを知らずに相手を傷つけてしまう場合があります。「知人がLGBT（性的少数者）だと知ったときどうすれば…」。一橋大学（東京都国立市）の学生サークルが3種類のパンフレットにまとめました。サークル代表の本田恒平さん（25）＝同大学院経済学研究科博士後期課程＝に製作への思いを聞きました。

伊藤佑亮記者

Youth Stadium ユスタ

パンフレットは、一橋大学の学生サークル「LGBTQ+ブリッジネットワーク」が、昨年9月から製作をはじめ、1月に完成しました。「多様性のために覚えておくべきいくつかのこと」という英語のタイトルです。

同大では2015年、LGBTの学生が、好意を抱いた男子学生にアウティング（本人の同意なく他人に性自認、性的指向を暴露されること）され、自死する事件が起きました。

本田さんは自死した学生の妹と留学先で偶然出会い、アライ（LGBTの支援者）として活動してきました。「この事件は好意を告げられた学生がどこにも相談できず、悩んだ末に起きてしまったことです」といいます。

今回のパンフ製作の背景には「二度とアウティング事件を起こさない」という思いが込められています。シスジェンダー（体と心の性が一致している人）やヘテロセクシュアル（異性愛者）の学生向けに製作しました。

個人として見る

パンフはLGBT当事者本人から①カミングアウトされた②たまたま知った③告白された―という三つのケースを想定しています。いずれも知ったときには、アウティングせず、国立市の男女平等参画ステーションなどに相談するよう呼びかけています。仮に当事者から告白された場合は、相手の思いを尊重し、真摯（しんし）な態度で対応することなどを伝えています。

本田さんは、「多様な性のあり方があることを知り、どう対応していくことがよいのかのヒントにしてほしい」と話します。

サークルでは議論を重ね、その内容を会話形式でパンフにまとめました。同サークルがかかわり、LGBTの支援センターが今年度、大学内で運営される予定です。

パンフのイラストやデザイン、タイトルを考えた本田さんは「同性愛も異性愛の恋愛と変わらない。特別な目で見るのではなく、個人として接することが重要」といいます。

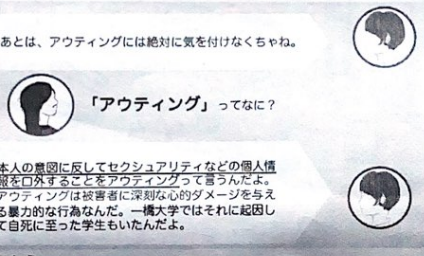
学生の生の声を

サークルでは昨年11月から1月1日まで他の学生サークルとともに、「一橋大学性暴力及びセクシュアル／SOGIE（性的指向と性自認）ハラスメント実態調査」を実施。その報告書を3月に公表しました。

その中には「『女性なのに化粧をしない』とからかいを受けた」「学生の『美醜』について語る教員がいる」との声や、女性用トイレで起きた盗撮や露出狂の侵入事件で、女子学生が安心して利用できないなどの実態が出されています。

「つらい経験をしている学生からの生の声が寄せられています」と本田さん。「4月からはこうした声に合わせて、『脱ハラスメント』に向けて取り組みを強めたい」と意気込みます。

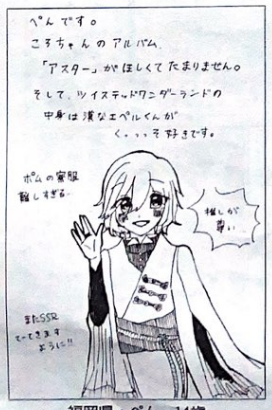
アウティング事件二度と起こさせない



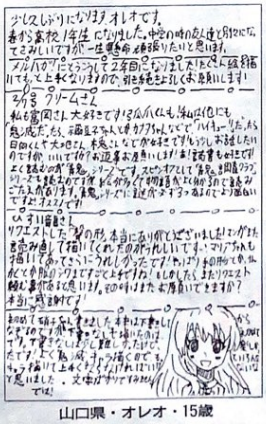
パンフから

「LGBTQ+」とは

- L　Lesbian（レズビアン）女性の同性愛
- G　Gay（ゲイ）男性の同性愛
- B　Bisexual（バイセクシュアル）両性愛者
- T　Transgender（トランスジェンダー）体の性と心の性が異なる人
- Q　Questioning（クエスチョニング）性的指向や性自認が定まっていない人
- ＋　他にもさまざまなセクシュアリティがあることを示す



福岡県・ぺん・14歳



山口県・オレオ・15歳

メルハガ!

メールやはがき、手紙の投稿をお待ちしています。〒163-8694 新宿郵便局私書箱183号 赤旗日曜版「ユスタ」係【メール】hanyu@akahata.jp.or.jp（件名に「ユスタ」と明記）【FAX】03（3350）9531。※住所、名前、ペンネーム、年齢、電話番号を記載。掲載した方には図書カードを進呈。

愛知県・やっさん・13歳

北海道・モヂ助・21歳